

学校図書館研究大会

9月26日、27日の2日間、第30回北信越地区学校図書館研究大会、第52回新潟県学校図書館研究大会の新潟市大会があり、参加しました。概要をお知らせします。大会主題は、「主体的・対話的で深い学びを支える学校図書館教育のあり方」です。

(1) **実践講座** 図書館・図書資料を利活用し、一人ひとりを深い学びに導くための実践講座

① 新潟大学附属新潟小学校の中野裕己先生の実践「小学校段階における自立した読み手の育成」

- ・「自立した読み手」になるために、ブックトークを活用した実践
心が動いた叙述に付箋→伝え合い→分類→読みの観点の自覚化
- ・教科書と並行してシリーズを読む→作品を比較する思考が生まれる
- ・継続した取組（読書環境の整備・読書カード・宿題・週1回のミニトーク）

② 新潟市立明鏡高等学校の吉澤孝子先生の実践（早通中学校での実践）「中学校段階における『自立した読み手』の育成～リーディング・ワークショップを用いて～」

- ・読書家になる体験を通して読むことを学ぶ→自立した読み手を育てる
- ・ミニ・レッスン→ひたすら読む→共有の時間…「ひたすら読む時間」を確保する
- ・おためし読書…本の冒頭部分を3分読む（4人班で8冊の本を準備）→点数化→共有（点数を比較したり、決め手を伝え合ったりする）。

自立した読み手とは？

- ① 自分で選書できる
- ② 読むことを楽しんでいる
- ③ 本を読む時間や環境を自分で作ることができる
- ④ 本をもとに他者と交流できる
- ⑤ 目的に応じた読みができる
- ⑥ 読むことを、自分を磨くことや生活に活かしている

by 『「読む力」はこうしてつける』吉田信一郎著（評論社）

<感想>

参加者は、児童・生徒になったつもりで授業を体験。ブックトークもリーディング・ワークショップも楽しい読書体験でした。授業に使えるのでは？

(2) **分科会** 「学校図書館のもつ機能の充実を図り、学びを深める取組について」

「深い学びを支える学校図書館の在り方」ということで、「学習・情報センターとしての機能を推進する学校図書館」をテーマに3校の発表がありました。

① 長岡市立黒条小学校 栗山しのぶ先生

- ・図書室が教室から遠い…各学年のスペースに学年の本を設置
- ・読み取る素地を育てる新聞の活用
- ・総合的な学習の時間に複数資料の活用
- ・パンフレットや雑誌、地域資料からの情報収集

② 十日町市立十日町中学校 新保かおり先生

- ・十日町情報館から団体貸出しを利用
- ・情報を比べながらまとめる授業…保健体育科で。「知識構成型ジグソー法」の取り入れ

新保先生、発表の大役お疲れ様でした！

- ・地域資料を活用した授業…社会科で。
 - ・情報量を生かした授業…総合的な学習の時間・美術科
- ③ 長野県駒ヶ根市立赤穂小学校 田中由里先生・池田美以子図書館司書
- ・H29より「調べる学習コンクール」を開催
 - ・学校司書常駐でレファレンスサービスが受けられる。
 - ・市内図書館ネットワークの活用…H16より「読み育」の重視で施策としてネットワーク化
→市内の全ての小中学校と市立図書館がつながっているので相互貸借が可能
 - ・司書と司書教諭の勉強会

<感想>

3つの発表は、いずれも児童・生徒の主体的な学びにつながるものでした。真似できそうなこともありました。しかし、駒ヶ根市のように恵まれた読書環境（ネットワーク化・司書の常駐・潤沢な予算）を聞かせてもらい、羨ましい！と思わずにはられませんでした。

(3) 講演会

講師 清水眞砂子氏（児童文学者・翻訳家・評論家）

演題「心がゆたかになるって ということ？—読書の効能を考える—」

- ・読書すると心がゆたかになる…優しくなる、穏やかになる、広くなる、親切になる…それだけ？ 読書はそんなに安全か？ それほど浅薄ではない。結果として穏やかに…なるとしても、怒り、憤り、深い悲しみ、不安、時には人を殺めるかもしれない…と自覚する。それが読書ではないか。
- ・自分が自分の中に入っていく道を教えるのが文学（鶴見俊輔の言葉）
- ・分からないことに気づかせるのが文学
- ・世の中も学校もイベントばやりで日常が見えない。それに気づかせるのが文学
- ・高校の教科書で文学教材の減…国語教育の危機？
- ・児童文学は明るくて元気がいいという空気。子どもの夢や希望を語らなければいけないという空気…そうなのか？
- ・ビブリオバトル…きっかけにはいいけれど。読書は戦うものではなく個人的なもの。
- ・何も考えずに群れの流れに流されるのではなく、せめて足を止める人になりたい。あわよくば群れに反して逆に歩ける人になりたい。
- ・いい質問ができる人に。それは、相手に深い関心をもたなければできない。

<感想>

講師の清水さんは、一見穏やかな姿に見えましたが、舌鋒鋭く、心に刺さるようなお話でした。読書の効能について考えるきっかけになりました。

要項や資料は、十日町情報館（高橋しげ子）にありますので、読んでみたい方は、連絡をください。貸し出します。

「家読体験記募集」について 十日町情報館・各分館（分室）の貸出しカウンターの近くに、「家読体験記募集」の案内と用紙を置きました。子どもたちに声掛けをお願いします。また、用紙が必要でしたら、連絡をお願いします。